

事業名 こうが 甲賀広域都市計画事業水口第
二土地区画整理事業、(2-1
工区樹木移植工事他5工事)

〔近江水口第二テクノパークにおける里山環境
保全のためのミチゲーション技術〕

受賞機関 住宅・都市整備公団関西支社滋賀開発
事務所水口開発課

事業実施期間 平成9年3月24日～平成10年8月25日

事業費 144百万円

技術等の特徴と評価

工業団地の造成にあたって、地域の風土・景観を残した環境共生型の開発をめざし、重機移植による大径木の大量移植、関西の痩せた土壌でも対応できるような発根促進、蒸発抑制等の移植技術を各段階できめ細かく実施することによって里山環境・景観の復元を実施したこと等が評価できる。また、伐採樹木はチップ材にして林床に敷き均すなど、資源リサイクルにも努めたことが評価できる。

事業の概要と効果

近江水口第二テクノパークは、琵琶湖の南東、水口町に位置する面積90.9haの工業団地の開発である。開発地の現況は、谷戸部に休耕田と溜池(湿地環境)、丘陵地にアカマツ林やコナラ林等からなる里山(里山環境)で構成された自然環境(二次的自然)の豊かな土地である。大規模な都市開発において、自然との共生のため、土木

機械技術(重機移植、チップ製造機等)を用いて、里山の地域性、生態を尊重した技術的配慮を行い、21世紀に向けた新しい里山環境再現のためのミチゲーションを実践している。

特に、関西では難しいとされていた大径木の重機移植では、地下部・地上部・地表部及び集合体としてきめ細かい配慮を行うことにより、樹木への移植時の負担を低減、生育環境の改善を通して良好な里山の再現を行った。また、建設副産物となる伐採木は、現場において直接チップ化を行い、里山環境形成要素(AO層)として活用し、土に還元する循環型の資源化を図った。

効果として、ともすれば単調となる工業団地の緑化空間に、日本人の心の古里である大きな木のある里山を開発当初より再現することは、購入木では成し得ない心の安らぎとなる自然と対話空間をこの地で働く就業者に体験させることができ、また、地域の人たちには、大造成地と工場群に対する和らぎの景観を与え、鳥や小動物にとっては生態的回廊として有益な生育環境を生み出すことができた。



小さな里山



重機移植風景



現在の状況